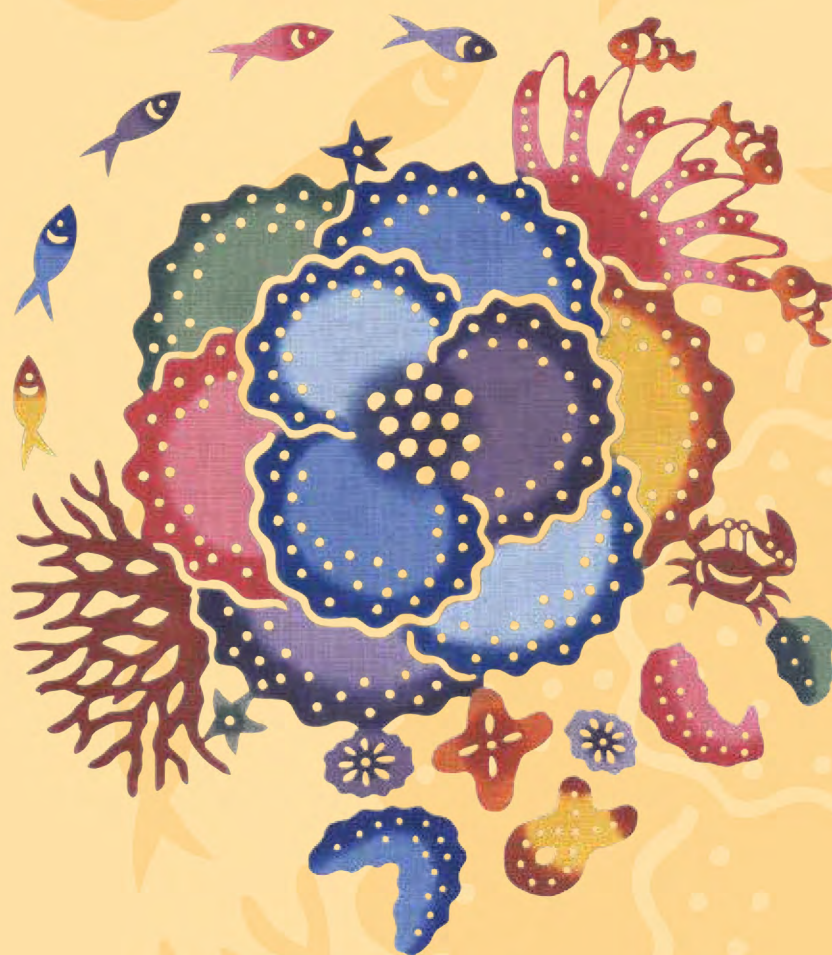


平成24年度

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」
事業報告書



国立大学法人 琉球大学
うない研究者支援センター

University of the Ryukyus
Unai Center for Woman Researcher Support and Development

センター長挨拶

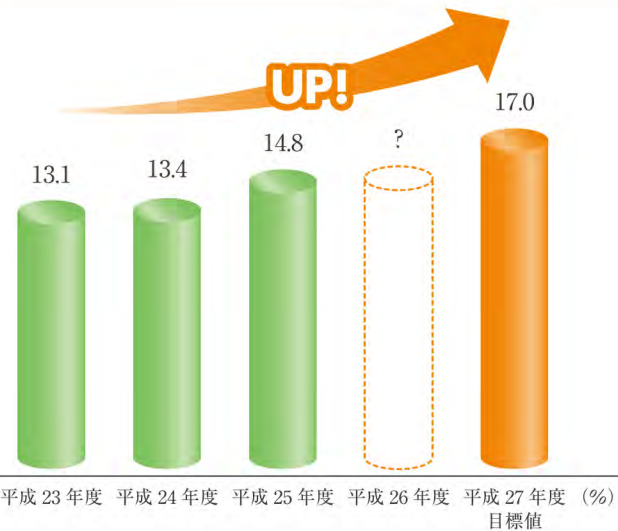


うない研究者支援センター長
教授 喜納 育江



うない研究者支援センターは、本学男女共同参画室が平成24年度に採択された科学技術振興機構「女性研究者研究活動支援事業」の一環として、平成24年11月に発足しました。ジェンダーに関する社会的通念や偏見をなくし、本学の女性研究者がその能力を最大限に発揮できるように職場環境を改善すると共に、男女に関わらず育児や介護と研究を両立できるように支援する取り組みを進めています。研究成果を様々な形で還元することで社会を活性化し、より良い方向へ牽引することは大学の主たる責務ですが、多様な人材のポテンシャルを最大限に引き出すと同時に、適切な人材登用のあり方を社会に示すことも、大学というコミュニティがなす重要な社会貢献です。本学が多彩な個性で輝くコミュニティとなれるよう、本センターは、女性研究者はもとより、本学に集うあらゆる人々を結び、エンパワーする機会を提供しています。

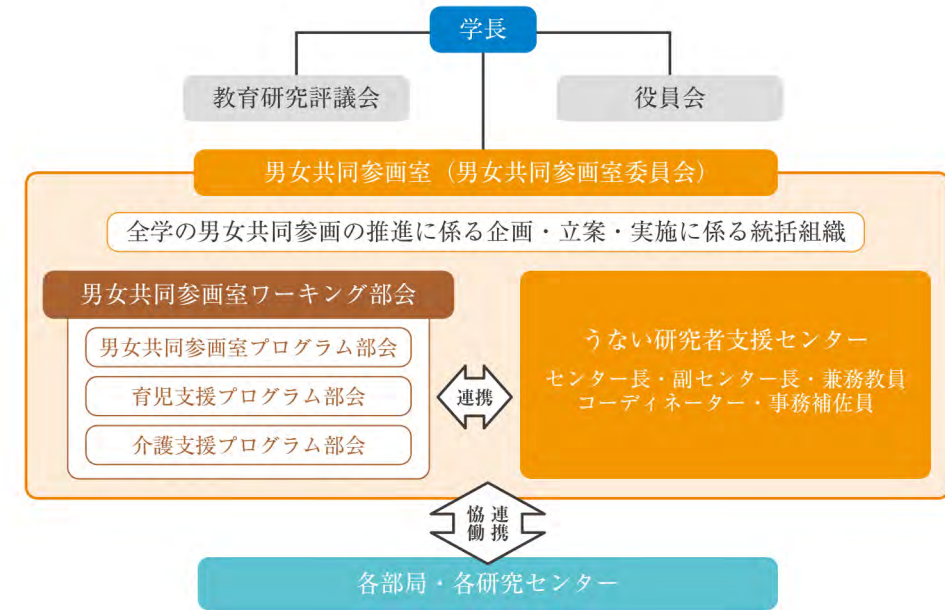
女性教員の比率増を目指します。



平成27年度末までに、女性教員の在職比率を17%に上昇させること、新規採用増を目指します。

出典 学校基本調査、琉球大学男女共同参画の推進について～アクションプラン～
図 女性教員の在職比率と目標値

組織図



活動報告

2012年

- 7月21日 オープンキャンパス「女性研究者による自然科学系分野の紹介」特別講座開催
- 7月27日 キャリアアップセミナー「働いたから感じたー技術とは、男性・女性とは、日本とはー」開催 (講師 小山 珠美氏、昭和電工株式会社 研究開発本部 安全性試験センター センター長)
- 9月13日 各学部へインセンティブ経費の配分通知
- 9月21日 国立大学法人琉球大学研究補助員取扱要項制定
- 10月4日 研究補助員配置制度利用者募集開始
- 10月26日 英文校閲及び国際学会派遣費用助成事業募集開始
- 11月1日 うない研究者支援センター設置
- 11月2日 第1回スキルアップセミナー「英語論文の書き方セミナー」開催 (講師、ミリンダ・ハル氏、カクタス・コミュニケーションズ株式会社)
- 12月15日 「第4回九州・沖縄アイランド 女性研究者支援シンポジウムin大分」共催
- 12月28日 うない研究者支援センターホームページ開設

2013年

- 1月18日 男女共同参画キャラバン隊(農学部)
- 1月21日 「うない通信vol.1」発行
- 2月6日 男女共同参画キャラバン隊(工学部)
- 2月14日 琉球大学うない研究者支援センターキックオフシンポジウム 開催 「“うない”から始まる琉球大学の未来」
- 2月22日 「生き方の多様性を応援する“うない文庫”」常設(附属図書館)
- 2月28日 「ワーク・ライフ・バランスの調和に関するニーズ調査」実施(全教員対象)
- 3月8日 第2回スキルアップセミナー「英語プレゼンテーションを学ぼう」 (講師、川上輪子氏、カクタス・コミュニケーションズ株式会社)
- 3月11日 「育児・介護等支援ガイドブック」、「うない通信vol.2」発行
- 3月14日 琉大21世紀フォーラム「女性と科学・技術:イノベーションの扉を開く」共催

環境整備

女性研究者が仕事と生活を両立できるよう、相談体制や研究支援制度等の環境整備に取り組みました。

研究補助員配置制度

平成24年11月より、出産・育児または介護等に携わる研究者に対し、研究時間を確保し、研究活動の活性化を促進するために、研究補助員を配置する「研究補助員配置制度」を実施しました。また、本制度を利用する教員は、研究支援を行う研究補助員に対し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた自らの研究やキャリア形成を考える手助けとなるよう監督・指導をおこない、次世代の研究者育成に努めています。

申請対象者

- 本学に在職する女性研究者または配偶者が研究者である男性研究者で、次のいずれかに該当する方
- 妊娠中の者、または配偶者（研究者に限る）が妊娠中の方
- 小学校6年生までの子を養育している方
- 家族（配偶者・父・母・兄弟・子等）に要介護者、または要看護者がいる方
ただし、産前産後休暇中、育児休業または介護休業中の方は除きます。

平成24年度研究補助員配置制度利用者数の内訳(11月～3月)

| 性別 | 育児 | 介護・看護 |
|----|-----|-------|
| 男性 | 4 | 0 |
| 女性 | 11 | 4 |
| 小計 | 15 | 4 |
| 総計 | 19名 | |

※研究補助員 24名

制度を利用して

工学部環境建設工学科
准教授 小野 尋子

基地跡地の土地利用を研究している中で、研究補助員には「①地形模型の作成」、「②GISのデータの整理」、「③県内環境共生住宅地の緑化率の計測と実質建ぺい率」、「④現在の地主が中心となって作成している個別基地跡地利用の問題点の整理」、「⑤環境共生施策の取りまとめ」、「⑥シンガポールの都市緑化制度の資料収集と整理」等を実施してもらった。①～④については、沖縄県が主催する「大規模基地跡地利用コンペ」の基礎資料として反映させ、その結果「優秀賞」を受賞することができた。また、普天間基地地主会や市民の会への分析結果の報告等、地域への還元を行うことができた。

これらは、研究の基礎作業的なものであるため、研究補助員の学生にとって分析技術の経験として位置づけられる。また、⑤と⑥の（業務）については、研究室の（共通）テーマでもあり、補助員自身のテーマでもあることから、資料収集と整理そのものが（研究補助員の）研究につながったと考えられる。

研究補助員の声

理工学研究科海洋環境学専攻 博士後期課程3年次 宮崎 悠
担当 大学院医学研究科医科学専攻分子解剖学講座 准教授 岡部 明仁

普段研究室という閉ざされた環境で特定の人間との関わりしか持てなかった私にとって、岡部先生のもとでの研究補助員活動は実に様々なことを学ぶ機会となっています。岡部先生のもとでは組織学から遺伝的解析まで幅広く研究の手法が用いられており、またそれだけではなく学問的なアプローチや考え方に関しても、いままで触れたことのないものに頻繁に出会うことができ、この経験を通して初めて学んだことが大変多くあります。さらに、異なる分野の研究に携わることを通して、自らの研究の背景や位置づけ、アプローチについて考えさせられる機会も多く、より広い視野に立って研究について、科学について捉えることができるようになりました。専門分野について分からないことの非常に多い私に対し、分かりやすいように瞬時に表現と言葉を変えて解説してくださり、研究者にとってのこのようなスキルの重要性についても思い知らされました。

英文校閲費用助成・国際学会派遣費用助成

女性研究者のキャリアアップを推進することを目的に、学術雑誌に論文を投稿する際の英文校閲に係る費用及び国際学会等で研究成果発表を行うために必要な旅費を助成しました。

平成24年度採択実績

英文校閲費用助成 (上限10万円) 3名
国際学会派遣費用助成 (上限15万円) 4名

成果報告

教育学部英語教育学科
准教授 興儀 峰奈子

うない研究者支援センターからの支援を受け、“2013 International Conference for Academic Disciplines”という国際学会に出席し、過去3年間行ってきた海外との遠隔通信交流を取り入れた英語教員養成系授業に関する研究成果を発表した。理系および文系の両視点が融合された興味深い学会であり、参加した教育関係者と意見交換をする機会にも恵まれとても有意義な時間となった。今後の教育・研究に向けて前進できたと実感している。このような貴重な機会を与えて下さったことに心より感謝申し上げたい。



“2013 International Conference for Academic Disciplines”にて

平成24年度インセンティブ経費

公募により女性研究者を採用した部局等にインセンティブ経費を配分し、教育や研究活動の環境整備等に使用されました。

平成24年度インセンティブ経費を配分された部局

- 法文学部
- 教育学部
- 医学部
- 医学部附属病院
- 留学生センター

相談・メンター制度

平成24年11月、女性研究者の仕事と生活を両立を応援するため、うない研究者支援センターが相談窓口として開設されました。また、メンター制度実施に伴い、自分自身も研究者として経験を積み重ねてきた本学の教員や退職された6名の教員がメンター（相談役）と委嘱されました。今後、女性研究者や女子学生が気軽に相談できるサポート体制を拡充していきます。

意識啓発

シンポジウムや様々な情報発信を通して意識啓発を行い、男女共同参画の推進を強化・充実を図りました。

キックオフシンポジウムの開催



2013年2月14日、琉球大学法文学部において、うない研究者支援センターキックオフシンポジウム「「うない」から始まる琉球大学の未来」を開催しました。当日は、教職員や学生、学外者を含め、約180人が参加しました。

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 課長補佐 織田島孝広氏と北海道大学副理事・女性研究者支援室長の有賀早苗氏（大学院農学研究院・生命科学院 教授）を講師としてお招きし、国や北大による取り組みについてご講演頂きました。

パネルディスカッションでは、喜納育江センター長がファシリテーターを務め、パネリストとして有賀早苗氏、大井久美子氏（長崎大学男女共同参画推進センター長）、前田和子氏（沖縄県立看護大学長）をお招きし、さらに本学からは花城梨枝子男女共同参画室長が参加し、「人的資源が切り拓く大学の将来像～今なぜ男女共同参画か」というテーマで討論されました。各大学の取り組みや女性研究者としての歩みなどの紹介を交えながら、地方大学における人的資源の確保をめぐる課題を共有し、大学間の人材ネットワーク形成の必要性について意見交換が行われました。

男女共同参画キャラバン隊

平成25年1月ならびに2月、うない研究者支援センターは男女共同参画室と連携し、農学部長と工学部長を訪問し、女性研究者の積極的採用や女性研究者支援事業の推進、男女共同参画推進の取組等について、意見交換を行いました。また、来年度の教員採用に向けて、関連する学会要旨集へ本学の女性研究者支援事業に関する広告を掲載することとし、女性研究者の採用促進を依頼しました。平成25年度も順次、各部局長を訪問し、意見交換を行う予定です。



男女共同参画関連図書コーナー「うない文庫」(附属図書館常設)

本学附属図書館に、(独)国立女性教育会館の図書パッケージ貸出サービスを利用して男女共同参画関連図書を200冊お借りし、「生き方の多様性を応援する「うない文庫」を常設しました。第一回目のテーマは、「女性と社会」。ジェンダー学などの授業参考図書として多くの方に利用されました。平成25年度以降も定期的に図書を入れ替えし、うない文庫を常設します。



育児・介護等支援ガイドブックの発行

育児や介護を行っている教職員が、本学の制度を有効に活用し、ワーク・ライフ・バランスが向上できるよう「育児・介護等支援ガイドブック」を発行しました。



育児・介護等支援ガイドブック

ワーク・ライフ・バランスの調和に関するニーズ調査

平成25年2月、本学の男女共同参画推進やワーク・ライフ・バランスの調和のために必要な環境・制度の整備について検討することを目的に、全教員を対象として「ワーク・ライフ・バランスの調和に関するニーズ調査を実施しました。

※結果の一部については、p9参照。

情報発信(ホームページやニューズレター)



ニューズレター「うない通信」



ホームページ

裾野拡大

オープンキャンパス (平成24年7月21日)

自然科学系分野への進学を予定している高校生を対象に、農学部や工学部、理学部、医学部、教育学部の女性研究者が自身の研究分野の魅力を紹介しました。多くの女子高生が研究に興味を持って参加してくれました。



キャリアアップセミナー (平成24年7月27日)

「働いたから感じた -技術とは、男性・女性とは、日本とは-」

昭和電工株式会社 研究開発本部 安全性試験センター センター長
小山 珠美 氏

民間会社で技術系の女性管理職として仕事に携わってきた小山氏が、その経験を活かし、教職員及び学生を対象にジェンダーに関わる視点を盛り込みながら、講演されました。



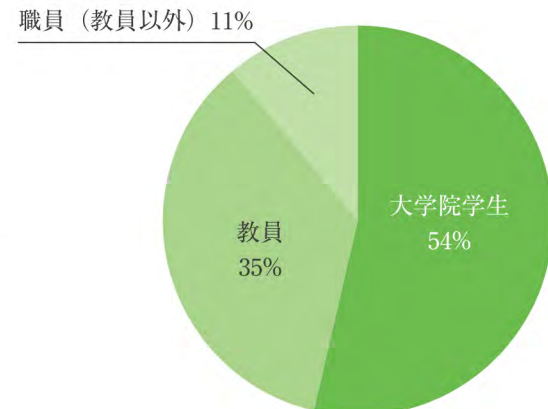
スキルアップセミナー

第1回スキルアップセミナー「英語論文の書き方セミナー」

平成24年11月2日(金)、ミリング・ハル氏(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)を講師に迎え、第1回スキルアップセミナー「英語論文の書き方セミナー」を開催しました。

本セミナーは、英語論文の正しい書き方を基礎から学びたい研究者・大学院学生や英語論文の正しい書き方を若手研究者にアドバイスする際の知識を獲得したい研究者を対象に英語運用能力向上を目的としたもので、教職員や大学院学生57名が参加しました。

参加者からは、「あっという間で楽しくなった」、「思った以上に具体的な内容で、今後の英語論文作成にすぐにとりいれられそうです」、「今後もこのセミナーを継続してほしい」などの声がありました。



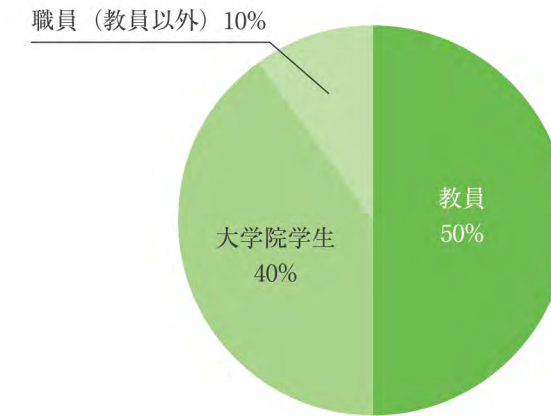
第1回スキルアップセミナー参加者の職種別比率 (N=57)

第2回スキルアップセミナー「英語プレゼンテーションを学ぼう」

平成25年3月8日(金)、川上輪子氏(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)を講師に迎え、第2回スキルアップセミナー「英語プレゼンテーションを学ぼう ~英語によるプレゼンテーションのスキルアップをめざして~」を開催しました。

本セミナーは、研究発表で自らの成果をわかりやすく、魅力的に伝えるスキルを身に付け、英語でプレゼンテーションをする際の最も基本的かつ必要な知識と技術を習得することを目的としたもので、教職員や大学院学生22名が参加しました。

参加者からは、「プレゼンテーションを作成する際に活かすことができる」、「初級・中級・上級クラスに分けてもらえる」とさらに良い、「先生に添削してもらい、効果的な、理解しやすい表現について学ぶことができた」などの声がありました。



第2回スキルアップセミナー参加者の職種別比率 (N=22)

第1回スキルアップセミナー



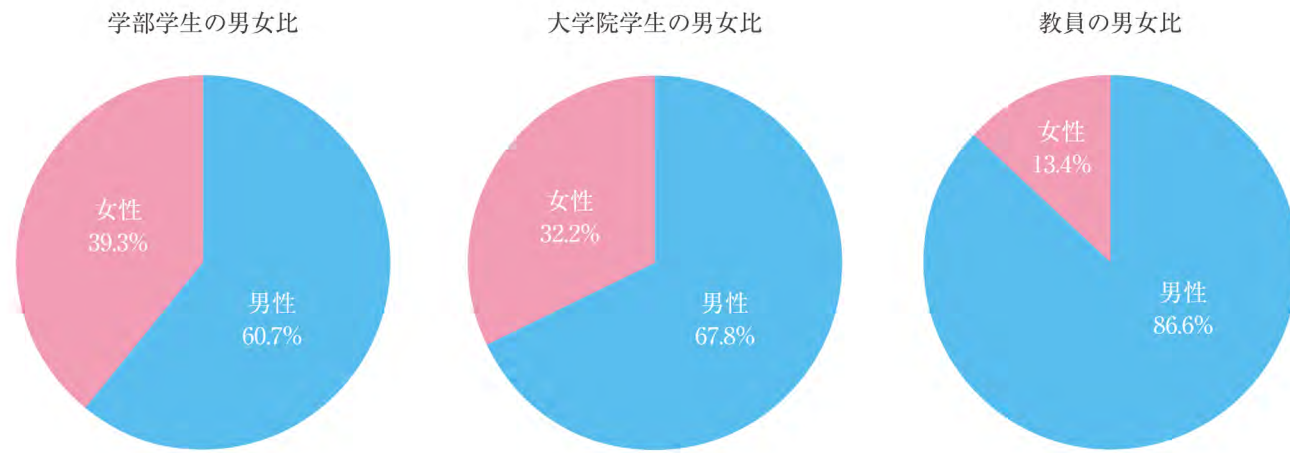
第2回スキルアップセミナー



数値でみる琉球大学

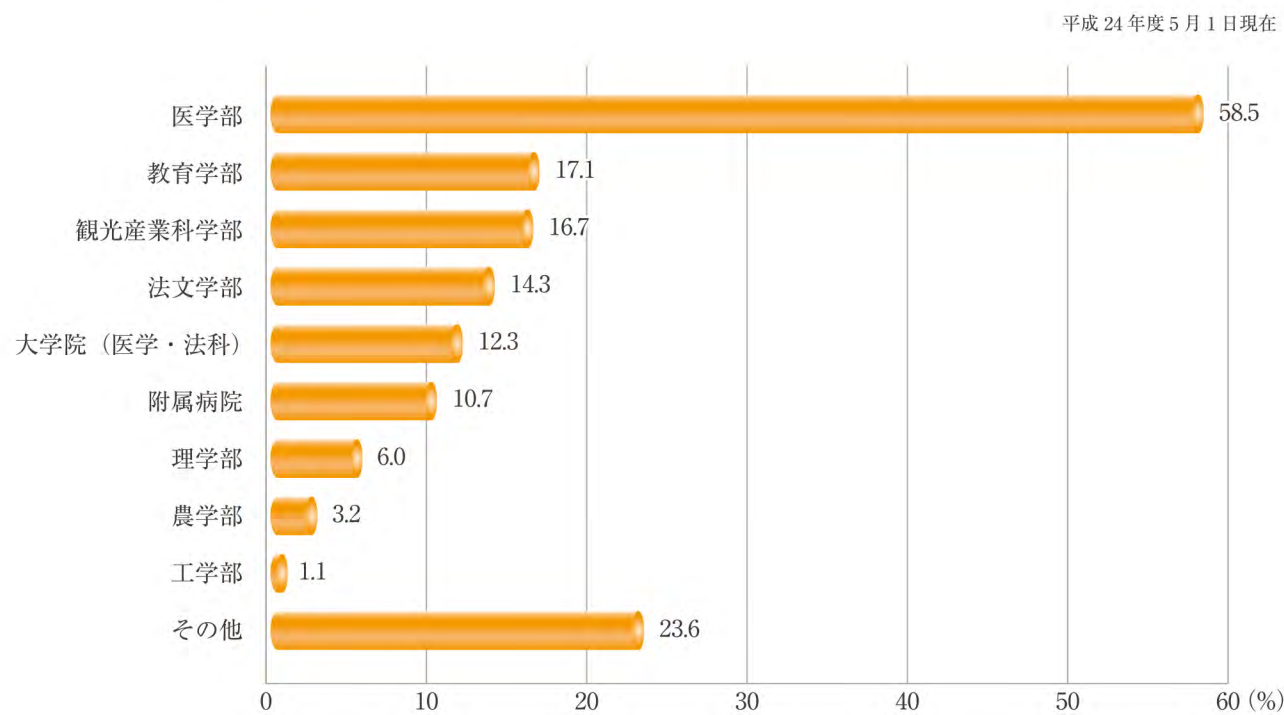
本学の男女比(学部学生、大学院学生、教員)

本学において、学部学生の約4割が女子学生だが、大学院学生では約7%減の32%となり、大学院へ進学する女子学生が男子学生よりも少ないことがうかがえます。さらに、女性教員の比率は13.4%と著しく低く、女子学生と女性教員の比率に大きな差があることが指摘できます。



出典 平成24年度学校基本調査
図 本学の男女比(学部学生、大学院学生、教員)

学部別女性教員の在職比率

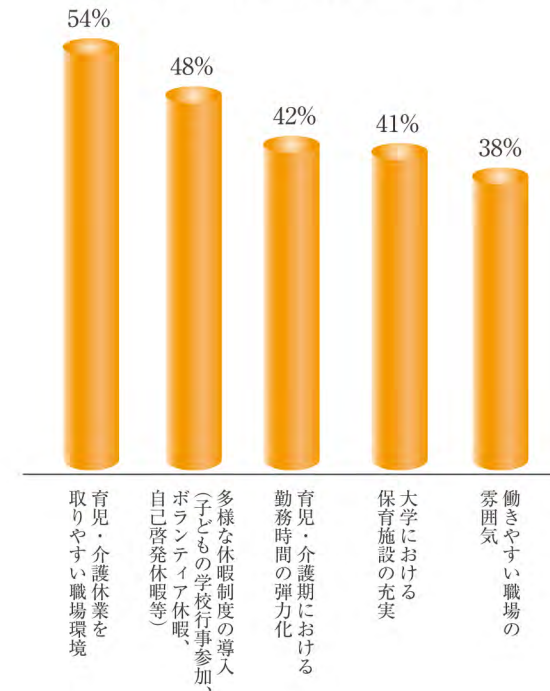


出典 学校基本調査(平成24年度)
図 平成24年度 琉球大学の学部・研究科別女性教員の比率

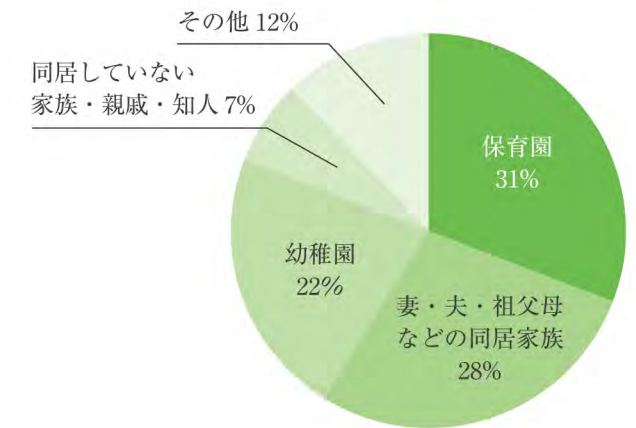
「ワーク・ライフ・バランス」の調和に関するニーズ調査

(2013年2月実施、全教員対象、回答率31.2%)

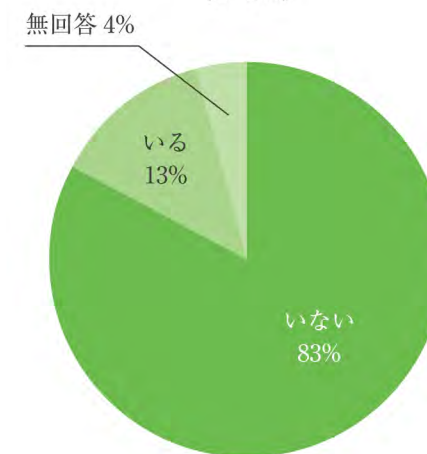
Q1 仕事と生活を両立させる上で必要なものは？
(上位5位、複数回答可、N=271)



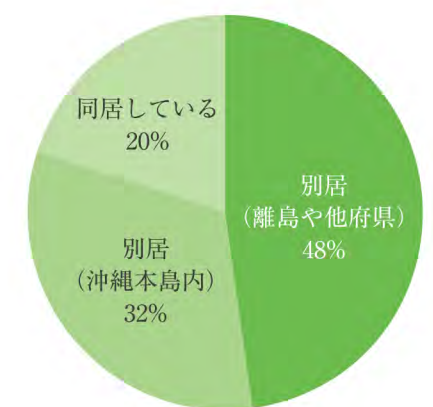
Q2 未就学の子どもの保育状況について
(N=111、複数回答可)



Q3 現在、家族に介護を必要としている方はいますか
(N=271)



Q4 介護を必要としている方と同居していますか
(N=40、複数回答可)



国立大学法人 琉球大学
うない研究者支援センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
国立大学法人琉球大学 うない研究者支援センター
TEL 098-895-8675 FAX 098-895-8732
Email gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/>

平成 25 年 8 月発行



この印刷物は環境にやさしい
ベジタブルオイルインキを
使用しております。



古紙配合率100%再生紙を使用しています